アマミノクロウサギ

【県内生息地】奄美大島・徳之島（地域を定めず指定）
【種　　別】国指定特別天然記念物
【指定年月日】昭和 38 年７月４日（国指定天然記念物　大正 10 年３月３日）

体長約 50cm，ほぼ全身黒褐色のウサギで，県本土に広く分布するノウサギに比べ，眼が小さく，耳，足，尾は短い。一方，足の爪はよく発達しており，穴を掘るのに適している。現生のウサギ科の中ではもっとも原始的なタイプとされる。

山間部のシイ，カシの原生林を中心に，造林地，ススキの茂る荒野などにも生息する。夜行性で, 昼間は土中に掘った穴や岩のすき間にできた穴などで休む。繁殖は年２回行い，子育て用の巣穴で，一回に普通１匹子を産む。

奄美大島と徳之島に生息する日本固有種で，奄美大島では生息分布域の減少が，徳之島では個体群の消滅の危険性が危惧されている。